令和７年 11 月 30 日

上熊崎遺跡の発掘調査

かみくまさきいせき　はっくつちょうさ

-雲仙市吾妻町「上熊崎遺跡」の発掘調査成果について-

（遺跡名）　上熊崎遺跡（かみくまさきいせき）
（調査期間）　令和７年１０月６日～令和８年３月末まで（予定）
（調査面積）　２，０７４㎡
（調査目的）　横田地区基盤整備事業

（調査概要）

横田地区基盤整備事業に伴い、令和６年度に倉子遺跡の調査を実施しました。縄文時代頃の落とし穴状遺構（イノシシなどの獲物を仕留めるためのもの）、縄文時代早期の集石遺構などが発見され、縄文時代早期には人々が暮らしていたと考えられます。

令和７年度は、上熊崎遺跡の調査を実施しており、中世から近世頃の水田跡が発見されました。また、中世頃の水田からは人の足跡が発見されており、当時の人々が農耕に勤しむ姿が想像できます。

（中世から近世頃の水田跡）

現代の水田面の下には、中世から近世頃の水田跡が発見されました。水田の畦（あぜ）は２種類確認されており、土を突き固めてつくったもの（中世頃）と、大量の石を積み、それを土で覆ったもの（近世頃）が確認されました。畦の内側には水田層と考えられる粘土層の堆積も確認されました。

中世頃の水田からは人の足跡が発見され、その大きさが 20 ㎝程と 25 ㎝程のものであることが分かっています。男性と女性または子どものものか…。これから調査が進むにつれて、詳細が分かってくると思います。

中世頃の水田跡　足跡発見状況

サイズが異なる足跡

近世頃の水田跡

道路跡（耕作用道路）

（まとめ）

まだ調査途中ですが、今回の調査より、上熊崎遺跡は少なくとも中世の段階には水田として利用されていた事が分かっています。洪水などにより、水田が影響を受けたと考えられる痕跡も確認されていますが、その上に新たな水田がつくられています。そこからは、自然災害で影響を受けながらも、当時の人々が、大切な食を守るため、日々奮闘した様子が伺い知れるようです。

遺跡地図：長崎県遺跡情報システムより